

令和6年度 第2回豊田市地域保健審議会

開催日時：令和7年2月4日（火）午後2時～3時30分

場所：豊田市役所 東庁舎4階 東44・東43会議室

出席者（敬称略）：加藤真二（会長）、田代和久（副会長）、安藤広重、岩月幸雄、大橋一之、酒井恵子、谷友一郎、中出美代、長谷川喜代美、前田定利

（欠席者）：重松良祐、吉田哲也

（市側出席者）古澤保健部長、竹内保健所長、佐野保健部副部長、伊地知健康政策課長、野嶋健康づくり応援課長、都築保健衛生課長、河合感染症予防課長、川合保健支援課長、宮川こども家庭課長

●古澤保健部長
豊田市挨拶

●竹内保健所長
豊田市挨拶

○加藤会長
審議会会長挨拶

議事

【報告事項】

（１）健康づくり豊田21計画（第四次）の推進状況について

●伊地知健康政策課長
健康づくり豊田21計画（第四次）の推進状況について説明

○田代副会長
事務局からの説明並びに御報告がございましたが、それに対して御意見等のある方は挙手にてお願いいたします。

○中出委員

協議から得られた意見やアイデアとして「若者や働く世代を巻き込んだ取組の展開に関する案」とありますが、具体的にはどんな案が出たのでしょうか。

また、「プラス10」については以前から取り組んでいると思いますが、実際それを継続して実践してもらう仕掛けづくりが必要だと思います。事業所単位で行ってもらったり、デジタル化したり、インセンティブをつけたり、若者への支援が必要だと思いますが、いかがでしょうか。

●野嶋健康づくり応援課長

一つ目に質問をいただいた「具体的な案」につきまして、今年度は市内の中小企業を中心にアプローチをかけています。計画推進委員会には様々な立場の委員がいらっしゃるため、一緒に何ができるかを話し合っています。例えば、山間地域では企業と連携が難しかったり、高齢者が多くて働く世代へのアプローチが難しかったりしますが、いろんな主体にアプローチして繋がりを作り、その主体と一緒に考えることができました。今後もこのような取り組みを増やしていきたいと考えています。

●伊地知健康政策課長

「プラス10」に関する仕掛けについては、地道な取組と、中出委員がおっしゃられたようにデジタル的な取組も必要だと思います。まず、地道な取組として、保健部に限らず他の部局でのイベントに参画できれば出向き、健康づくりについてPRする際に「プラス10」の言葉を広め、個々の「プラス10」をイメージしていただけるような啓発や「プラス10」を目にする機会を増やすような活動を行っていききたいと考えています。

また、インセンティブについては検討が必要となりますが、デジタル化については若者と一緒に取り組む中でクリティカルな話があれば、そこも取り入れながら進めていきたいと考えています。

○中出委員

食生活改善推進員という方がおり、豊田市は独自でヘルスサポートリーダーというしっかりした組織で活動されていると思います。実態が分からないので既に行われているかもしれませんが、そういった組織の方々に「野菜を食べよう」などの活動も頑張っていただけるといいと感じました。

●伊地知健康政策課長

ヘルスサポートリーダーとの活動については、健康づくり応援課と一緒にやって取組を進めております。今週末には博物館で開催している和食展において、

給食協会と保健部が合同でブースを出展しますので、ヘルスサポートリーダーにも協力をいただくことになっています。食べることの企画であるため、食育など健康づくりについて PR をさせていただく予定です。

○大橋委員

職域との関わりについて、山間部においてアプローチが難しい、これから何か手があるのではないかとのお話がありました。大手企業ですと、優良企業認定やホワイト 500 など企業価値としての取組がなされているところが多いですが、中小企業ですとか、山間部や都心も含めて全体的に見て、これまでこういったアプローチをして、これはもう少しこうした方がいいなど、今後の取組は見えてきているのか、手があれば教えていただければと思います。

●野嶋健康づくり応援課長

現在関わっているのは、従業員が 300 人未満の企業です。大手企業のように産業医や保健師がいないため、自社だけで健康づくりに取り組む余裕がない企業などに関わりを持ちながら、働く世代の健康づくりを進めていきたいと考えています。

1 月末に健康経営のセミナーを開催し、健康経営に取り組む事業所も含めて 27 名が参加しました。同じ市内の事業所における活動や、これから取り組みたい事業所がどう進めるとよいかについて情報交換をしました。こうした取り組みを充実させ、市の活動を PR しながら広げていきたいと考えています。

○大橋委員

今の説明で、300 人未満の企業の方を対象として、27 人の参加とありましたが、想定として多いのでしょうか、少ないのでしょうか。

●野嶋健康づくり応援課長

今回が初回の開催だったので、予想していた参加者数でしたが、決して多いとは思っていません。これから来年度に向けて、庁内の産業労働課とも情報共有しながら取組を進めています。委員の皆さまの協力を得ながら、できる方法を探しつつ広げていきたいと考えています。

○大橋委員

一回だけではなく、継続的にということですね。ありがとうございました。

○長谷川委員

1月14日の合同部会での協議内容として、東部・西部・南部・北部に関して協議された内容のポイントが書かれていました。東西南北に分かれてもかなり広域な地域単位である印象を持っておりますが、例えば、東部の中でもさらに細かく地域ごとの課題に対して取組を行っていくような予定でしょうか。東部全般と言っても地域の問題や背景が見えにくいところがあるのではないかという印象を持っています、地域の特徴に応じた取組などをどのようにされていくのでしょうか。

●伊地知健康政策課長

長谷川委員の仰るとおり、東部と言いましても足助・稲武から高橋地区までかなり広域に担当しているような状況でございます。足助地区と中心市街地に近い高橋地区ではかなり地域の状況が違いますので、担当の保健師もやり方を変えながら取組は進めているところですが、東部で一括りになっているところをどう進めていくのかという課題もあります。委員のみなさまに意見を伺いながら、試行錯誤しながら進めていこうと考えています。

○田代副会長

その他ご意見はよろしいでしょうか。ないようですので、次の報告に移ります。

(2) 感染症予防計画・健康危機対処計画の進捗状況について

●伊地知健康政策課長

感染症予防計画・健康危機対処計画の進捗状況について説明

○田代副会長

説明が終わりましたが、これに対しましてご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

○安藤委員

この年末年始にインフルエンザが大変流行りました。警報級の惨事をはるかに超える指標という話がありました。

医療機関や保健機関の御尽力によって、なんとか年末年始を乗り切った市民も多く、実際私の周りにも雇ったという声が多くありました。多岐に渡る御尽力に感謝しているところです。感染症予防計画などは新型コロナウイルスなどの大きな感染症を想定してみえると思いますが、通常のインフルエンザも爆発的

に増えると危険なため、特別な感染症でなくても計画の中に加えていただけるとよいのではないかと思います。

●河合感染症予防課長

感染症予防計画ですけれども、策定するに至った一番大きなきっかけは新型コロナがあったからということになりますが、感染症全般をフォローする計画として、季節性のインフルエンザやその他の感染症もこの計画に基づいて必要な対応をとっていきましょうという位置づけのものになります。そういった中で今般の季節性インフルエンザの感染拡大、毎年度のように流行の拡大はありますけれども、今年度におきましてはピークが年末年始と合致してしまったということが大きな出来事であったと思います。季節性インフルエンザは新型コロナと同じ5類感染症という位置づけの中では、法に基づく半ば強制的な措置みたいなものがなかなかとりづらい現状がありますけれども、市民の方々への情報提供・注意ですとか医療機関における必要な対応の確認・協議ですとか、できることがもしかしたらあるかもしれないということで、今年度の出来事は今後の教訓としていきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。

○前田委員

予防計画とは別の話になってしまうかもしれませんが、高齢者の方などにインフルエンザワクチンの接種のお願いなどをされているかと思います。実際、豊田ではどのくらいのパーセンテージで接種されているのかなと。

インフルエンザに罹ったときに重症化しないための予防にもなりますので、我々も事業者として啓蒙活動などをした方がいいのかということのを思いましたので、接種率が分かればお聞きしたいと思い質問しました。

●河合感染症予防課長

インフルエンザの予防接種については、65歳以上の方々と一部ですが60～64歳の方々と対象に定期接種として毎年度と同様今年度も実施をしております。接種率は、実績をまとめるのが年度単位ということで、現時点の正確な数字はない状況ではありますが、印象といたしまして、季節性インフルエンザの接種率はおそらくは例年と同様程度と受け止めております。例年概ね接種率は60%～70%台前半くらいに収まっておりますが、今年度も同様の結果が出るのではないかと読んでいます。

もう一つ新型コロナウイルス感染症の予防接種、こちらインフルエンザと同じ対象の方々に今年度から定期接種として開始をしております。こちらの方の接種率はインフルエンザよりは大幅に落ちるであろうと思っております。な

かなか正確なところは申し上げづらいのですが、おそらくインフルエンザの半分程度かもうちょっと落ちるかもしれないという状況でございます。

○加藤会長

1（2）に「BCP の発令と同時に」とあったと思いますが、市としては BCP をしっかり作成されているという認識でよろしいでしょうか。もしそうであれば、その BCP の考え方を各団体、例えばうちで言うと豊田加茂医師会など、そういったところとある程度擦り合わせる作業が BCP を作る上で必要になってくるのではないかと思います。この「BCP の発令と同時に」という言葉から、医師会と BCP の接点がないなと思ったので、そこを質問させていただきたい。

もう一つは4の備蓄についてですが、どのくらいのものを備蓄されているのかお伺いしたい。

●伊地知健康政策課長

BCP につきまして、市内部では有事の際の対応が決まっており、医師会との連携や医療機関との連携も BCP に含まれています。詳細が必要であれば、市の保健部の BCP について情報提供をさせていただきながら今後の対応を進めてきたいと思います。

備蓄については、資料にもありますとおり、個人防護具や消毒液があり、まずは感染症に対応するための備蓄となっています。対応するにあたり感染症を周りに広げないように完全防備できるように備品等を備えている状況でございます。

○加藤会長

コロナのときにそういったものが不足して医療機関は悲慘な思いをしましたので、行政がそういったものを備蓄してもらえるとありがたいと思い質問させていただきました。

BCP については、共同で進める必要があり、医師会が持っている BCP のようなものと擦り合わせる作業が大事だと思います。医師会に限らず、相手方があるようなものに関してはしっかりと打合せをしていくことがとても大切だと思います。ありがとうございました。

○田代副会長

他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは報告事項の3に移りたいと思います。今年度の重点取組についてご説明をお願いしたいと思います

が、全部で8項目ありますので、すべての説明が終了した後にまとめて質疑応答を行いたいと思います。

(3) 今年度の重点取組について

- 野嶋健康づくり応援課長

重点取組項目の項目番号1「まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの推進」について説明

- 伊地知健康政策課長

重点取組項目の項目番号2「市民の健康づくりを支える体制強化」、項目番号3「大規模災害や健康危機への対応」について説明

- 河合感染症予防課長

項目番号4「感染症対策及び予防接種の推進」、項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(4)について説明

- 川合保健支援課長

重点取組項目の項目番号5「精神障がい者や難病患者等の自立支援体制の推進」について説明

- 都築保健衛生課長

重点取組項目の項目番号6「日常における食品衛生及び環境衛生の安全・安心の確保」(1)～(3)、項目番号7「人と動物の共生社会の推進」、資料3-1「災害時のペット同行避難体制の拡充」について説明

- 宮川こども家庭課長

重点取組項目の項目番号8「子育て家庭への伴走型支援の充実」について説明

- 田代副会長

ただいま、1項目から8項目まですべての説明が終わりました。それにつきまして、ご意見並びにご質問等ございましたらお願いいたします。

- 谷委員

「災害時のペット同行避難体制の拡充」について資料を拝見させていただきました。体制の充実が図られていると感じました。ただ、実際災害が起こった際に、その場を仕切る人が必要ではないかと感じました。それに関してはミッションカードを見てやるのか、職員の方が現地に向かってやるのか、その場を仕切る人がいないと上手く誘導するのが難しいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

●都築保健衛生課長

避難所につきましては、市の防災担当が避難所運営班として職員を配置しております。職員はサポートをする役割になっておりますが、避難所の設営や運営は、避難者や地元の方々が自助共助で行うというスタンスのもと、仕組みが作られております。職員の人数は1～2名程度ですので、地元の方々が自助共助で対応できるようにスターターキットを配備していきたいと考えています。

○谷委員

わかりました。自治区の方などと連絡をとり、その自治区の方を中心にして進めていくという理解でよろしいでしょうか。

●都築保健衛生課長

そうですね。ペットについてはまだまだ課題があると思いますので、これから検討を重ねていきたいと思います。

○谷委員

ペットを飼っている方が30%くらいいると思いますが、ペットが苦手な方もいらっしゃると思います。市内全ての避難所にペットを連れて避難することができることはとてもすごいと思いますが、上手く調和できるとよいですが、一般的に受けられるかは少し心配しています。

●都築保健衛生課長

能登の災害の際も、動物が好きな方もいれば苦手な方や嫌いな方もいらっしゃる中で、どう共存していくのかという課題が上がっておりました。同室避難などいろんな形で検討していきたいと思いますので、またお力を貸していただければと思います。

○安藤委員

「人と動物の共生社会」について質問ですが、私の家の前に都市公園がございます。昼間は子どもたちが遊んでいるんですが、犬の散歩の際に糞尿をさせていく方がいます。犬が悪いわけではなく、飼い主の責任です。公園に行くと糞が散らばっています。そこで確認ですが、ペットの糞尿に関する衛生基準のようなものがあるのか知りたいです。もし基準があるなら、一定数を超えた場合にはこども優先で糞尿を禁止するなどの措置ができるといいなと思っています。

●都築保健衛生課長

衛生基準などは特段ありませんが、犬や猫の糞尿の処理については飼い主の責任です。重点取組として説明させていただいた「適正飼育」の中の一つとして、飼い主が自分のペットの糞尿をしっかりと処理するよう引き続き周知啓発に励んでいきたいと思います。

○田代副会長

谷委員、そのあたりの御助言はいかがでしょうか。

○谷委員

昔に比べて、排泄物を処理するための袋やペットボトルを持つ飼い主が増えており、マナーが向上していると思います。しかし、全ての飼い主がそうしているわけではありません。動物病院でも、ペットの糞尿処理の重要性を啓蒙するようなポスターを貼らせていただくなど、保健所の協力を得て、マナー向上のための活動に協力したいと考えていますので、今後ともよろしくお願いします。

○中出委員

3番の大規模災害について、避難所では食料の問題が起こると思います。知り合いが避難所で奉仕していて、病気のある人や脳梗塞や嚥下障がいのある人たちには、食料や物資があっても必要な人には届かない問題があると聞いています。平時から対応するのは難しいと思いますが、何かしら対応ができると良いなと思っています。

●伊地知健康政策課長

食事の備蓄に関しましては、防災対策課が担当をしており、アレルギー食やこども用の離乳食も配備しています。しかし、災害時にこれらをどのように配布するのが問題です。臨機応変な対応が必要であり、医療保健と防災の分野との連携を強化し、避難所運営を円滑にするためにも協力しながらやっていきたいと考えています。保健部は保健師が多くいますので、避難所での健康管理を行って

いくこととなります。食事が行き届かず、健康を害することがないように、人員体制を強化して対応していきたいと思います。

○酒井委員

この取組の中で、計画が推進されていることに感謝しています。

まず、項目番号1の「高校生、大学生等を対象とした食育の推進」について、どうして高校生や大学生に着目したのかお聞きしたいです。こどもの貧困や、小中学生が朝食を摂らずに学校に来る問題もありますが、なぜ高校生や大学生を対象とされたのか知りたいです。

日本は大災害が多い国で、いつどこで災害が起こるか分かりません。災害時の備蓄や避難所の問題について、動物が良い環境で保護される一方で、人間を全て収容できるか不安に感じます。私も日赤看護大学の訓練で傷病者役として参加したことがあり、待ち時間や医師の動きなどを知り、組織と訓練の重要性を感じました。課題が山積している中でどのように対応すべきか考えさせられます。

また、肉や魚を買ったとき、大きな肉を切ったら寄生虫がいたり、鮭をしっかりと焼かないと腹痛を起こす心配があったりなど、食の安全もとても大事だと思いますので、是非強化して対応していただくことを願っております。

●伊地知健康政策課長

今年度からスタートした計画では、これまで不足していた若い世代や働く世代へのアプローチを強化しています。学生などの若者にも食育の推進が必要であり、痩せの問題や糖尿病予備軍への対策も重要です。そのため、今年度は若者を対象に重点的に取り組んでいます。」

次に災害ですが、どんな災害が来るかわからないので、南海トラフのような大規模災害に備えて、避難者の安全と健康を守るために訓練を重ねて対応を準備しています。臨機応変な対応が求められますが、職員の訓練を続けて、どんな事態にも対応できるようにしていきます。課題は多いですが、何とか対応していけるように頑張りたいと思います。

○大橋委員

ペットの同行避難の対策について、コンテナハウスや段ボールハウスなどの対応は素晴らしいと思いました。最近注目されている課題で、各自治体が試行錯誤しています。刈谷市の学校でも避難訓練を行ったと聞いていますが、何かご存じでしょうか。

●都築保健衛生課長

今年度、愛知県が本格的に取り組みを始め、希望する市町村に自主事業を提案しています。その一環として、刈谷市が自主事業を行っています。

○大橋委員

このようなコンテナハウスや段ボールハウスのような設備はなかったため、最初は駐輪場しか避難場所として使えず、同室での避難の問題やペットの好き嫌いなどの問題があったようです。各自治体の取組をみながら対応を考えてもらえればと思いますので、参考までに情報提供させていただきました。

●都築保健衛生課長

刈谷市には行けませんでした。豊明市の取組を見学させていただきました。現在は報告にあるような形で取り組んでいます。手探りで進めており、課題もたくさんありますので、周りの状況を注視しながら進めていきたいと思っています。

○田代副会長

その他はいかがでしょうか。ないようでございますね。

活発なご意見ありがとうございました。スムーズな議事進行に御協力に感謝申し上げます。

— 以上 —